

## 日本における難病による死亡の時系列推移 (1972~2004年)

ドイユリコ ヨコヤマ テツジ サカイ ミヨシ  
土井由利子\* 横山 徹爾<sup>2</sup>\* 酒井 美良<sup>2</sup>\*

**目的** 国は、1972年に、原因不明で治療方法が未確立であり、経過が慢性で後遺症を残すおそれが少なくなく、身体的のみならず精神的、経済的にも負担の大きい疾病を難病と指定し対策を進めてきた。本研究の目的は日本における難病による死亡の時系列推移 (1972-2004年) について検討することである。

**方法** 難病に指定されている特定疾患治療研究対象疾患45疾患のうち、年間死亡数が100を超す再生不良性貧血、パーキンソン病、全身性エリテマトーデス、潰瘍性大腸炎、特発性血小板減少性紫斑病、結節性動脈周囲炎、アミロイドーシスを対象疾患とし、人口動態調査死亡票をもとに、粗死亡率と年齢調整死亡率 (直接法) を算出し、ジョインポイント回帰モデルを用い時系列推移について分析した。

**結果** 最新 (2004年) の各疾患の粗死亡率 (人口100万対) は、男女それぞれ、パーキンソン病で25.55, 25.93, 再生不良性貧血で5.41, 6.92, 全身性エリテマトーデスで0.87, 3.50, アミロイドーシスで2.93, 2.36, 結節性動脈周囲炎で1.40, 1.54, 特発性血小板減少性紫斑病で1.34, 1.61, 潰瘍性大腸炎で1.02, 0.74, であった。年齢調整死亡率の年変化率を全期間で見ると、潰瘍性大腸炎 (男-5.2%, 女-7.5%), 再生不良性貧血 (男-3.6%, 女-3.7%), 特発性血小板減少性紫斑病 (男-2.1%, 女-3.0%) と全身性エリテマトーデス (男-0.9%, 女-2.6%) で減少, アミロイドーシス (男+3.3%, 女+3.5%), 結節性動脈周囲炎 (男+3.2%, 女+4.0%), パーキンソン病 (男+0.7%) で増加していた。最新の時系列相に注目すると、アミロイドーシス (男) では有意に増加していたが、結節性動脈周囲炎 (女) とパーキンソン病 (女) では有意に減少していた。一方、潰瘍性大腸炎 (男) は減少傾向が止まった状態が続いている。

**結論** 対象とした難病の多くは、この約30年間で、年齢調整死亡率が有意に減少した。難病に効果的な一次予防の手立てがないことから、死亡率の改善は、診断治療の進歩による可能性が大きいと考えられる。しかしながら、根治療法の開発や病因の解明など未解決の部分も多く、患者支援とともに、さらなる研究が必要である。

**Key words** : 難病 (特定疾患), 死亡率, ジョインポイント回帰分析, 再生不良性貧血, パーキンソン病, 全身性エリテマトーデス, 潰瘍性大腸炎, 特発性血小板性紫斑病, 結節性動脈周囲炎, アミロイドーシス

\* 国立保健医療科学院研修企画部

<sup>2</sup>\* 国立保健医療科学院技術評価部

連絡先: 〒351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6 国立  
保健医療科学院研修企画部 土井由利子